

「あいこう・ふなこ9条の会」ニュース

ロシアがベラルーシに核兵器配備、新たな被爆者をつくるな！

ロシアが、ベラルーシに核兵器配備を表明

ロシアによるウクライナ侵攻から1年が過ぎました。プーチン大統領は3月25日、戦術核兵器を隣国ベラルーシに配備することを表明し、核運用可能なロシアの弾道ミサイルシステムの供与と、ベラルーシの軍用機10機を核兵器が運用できるよう改修したことを明らかにしました。

2021年に発効した核兵器禁止条約は、核兵器の使用はもちろんのこと、核による威嚇も他国への配備も禁止していません。万一、この戦争で核兵器が使用された場合、欧州にみならず地球規模の危機となります。

岸田総理は5月に広島でサミット（主要7か国首脳会議）を開催し、日本は議長国となります。岸田総理には、核兵器禁止条約を日本が早く署名・批准し、唯一の戦争被爆国としての責任を果たしてほしいと強く望みます。戦争は始めてしまったら、止めるのは大変難しいし、地球上に核兵器がある限り、核の恐怖から

免れません。ロシアのウクライナ侵攻は、歴史的背景があるとしても、紛争の平和的解決を宣言した欧州安保協力機構（OSCE）という枠組みがありました。ところが、北大西洋条約機構（NATO）もロシアもそれを脇におき、軍事対軍事の対立に陥りました。

基地強化・地下化で自衛隊は守っても、国民は守られない

今、私たちは、戦争の現実をリアルタイムで見えています。岸田政権が進

める大軍拡・大增税は、専守防衛ではなく、先制攻撃そのものです。

先制攻撃をすれば、その時点で国際的に非難の的となり、相手国は当然反撃してきます。それに備えて、約300か所の自衛隊の基地を地下化して強化するために、既然大手ゼネコンとの打ち合わせが始まっているそうです。ですが、私たち国民の逃げ場はありません。

岸田総理には、国民を戦争に巻き込むのではなく、東アジアの国々と外交を重ねて、戦争を回避することだと、声を大にして訴えます。



スノーフレック (鈴蘭水仙)

— 平和委員会学習会 —

憲法と外交で日本を守る — 岸田大軍拡の危機とデタラメ

3月21日、アミュー

さんです。

あつぎで、平和委員会主催の学習会「憲法と

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、

加盟国および国際機関に「国連憲章の原則に従い、平和をできるだけ早く達成するための外交努力への支援を倍

外交で日本を守る。岸田大軍拡の危険とデタラメ」がありました。

軍事の理論優先で、未だ解決の道が見いだせていません。2月23日、

国連で対ロシア新決議が141か国の賛成で、

講師は、日本平和委員会常任理事の川田忠明

が141か国の賛成で、

川田さん

二面に続く

ピースリレーinあつぎ

日時：5月14日(日) 11:00~12:00

場所：本厚木駅北口広場

各自ブラカードなどお持ちください。

2023憲法大集会

あらたな戦前にさせない！
守ろう平和といのちとくらし

5月3日(水・祝) 有明防災公園

10:30 本厚木駅中央改札内集合

〇本厚木駅北口広場でも宣伝

13:00~約1時間

各自、ブラカードなどお持ちください。

金平茂紀さん講演会

「殺すな！報道の自由2023」

講師：金平茂紀さん

(TBS報道記者・キャスター)

日時：4月27日(木)

14:00 (13:30開場)

場所：厚木市文化会館小ホール

前売り券500円 当日券700円

主催：厚木市九条の会ネットワーク

詳細は同封のチラシを参照ください。

お知らせコーナー



は、日本にとつての教訓は、「戦争を起してはならない」ことだと語ります。その理由は①日本の周りは全て海②海岸線には原発が密集③周辺関係国・米中北口は核保有国。「戦争で原発や核攻撃された場合、陸路の逃げ道は無い。ウクライナ以上に破滅的な結末を迎えることになる」

日本を戦争に巻き込む仕掛けは「台湾有事」。万一、中国と台湾の間で戦闘が発生した場合は、米海兵隊が奄美大島、宮古島、石垣島など40か所に配置され、日本の自衛隊は米軍の指揮の元、一体となって動くと言われています。ところが、ここに住む人たちについては、命も暮らしも全く無視されています。憲法審査会では、日本維新の会が9条改憲や緊急事態条項をつくることを煽っています。そんなに戦争する国にしたいのでしょうか。

話の前提を『攻めてくるかも・・・』から始めると『どう戦うのか』の議論に陥る。今必要なのは、対立を戦争にしない『戦略』だと語ります。その戦略とは、憲法9条の立場からの綿密な外交です。

「**本当の安全保障は憲法と外交**」これが一般世論となるよう、もっと広げなければと強く思いました。

さちこ

チョットサイエンス

再生エネルギーの潜在能力

岸田内閣は脱炭素社会の実現に向けた取り組みとしてGX（グリーントランスフォーメーション）を発表しました。

しかし、原発の再稼働や次世代型新炉の開発・建設に取り組むなど、3.11の教訓を忘れて原発の復活を計画しています。地球温暖化対策としてCO₂を排出しないエネルギー源は必須です。そこで、火力や原発に依存しないエネルギー源の可能性がどの程度の量あるのかを調べてみました。

太陽光発電と風力発電で 日本を7つ 賄える

環境省は2009年度と2010年度に再生可能エネルギーの潜在能力を集計し発表（表-1）しています。この報告に基づくと、「導入潜在能力」は太陽光発電だけで発電量3兆2,216億kWhとなります。ここ数年の日本の電力需要は1兆kWh程度（表-2）ですから、太陽光発電の潜在能力だけでその3倍を超えます。それ以上に「導入潜在能力」が大きいのは風力発電です。発電量は陸上風力で6,859億kWh、洋上風力では3兆2,956億kWhで、合計の発電量は3兆9815億kWhとなります。こちらは日本の電力需要の4倍です。なんと太陽光と風力だけで、日本の電気の7倍以上を賄えることになるのです。

経済性を考慮しても・・・

太陽光発電と風力発電で約7兆kWhの潜在能力がありますが、設置場所や建設費用などを考慮すると、このすべてが今すぐ利用出来るわけではありません。現時点での経済性を考慮する

と、太陽光と風力を合わせると予想される発電量は1兆2,434億kWhになります。これでも2020年度の総電力実績を20%以上も上回っています。

GXで掲げている脱炭素に向けたエネルギー政策の中の、原発再稼働や新しい原発の研究・開発の予算を、再生可能エネルギーの普及と技術の開発に向けて、「脱原発とエネルギー資源の外国依存からの脱却」を最大の課題にするよう岸田政権に強く求めたいと思います。

市川隆雄

（表-1）

再エネ種類	導入ポテンシャル (発電量億kwh/年)	経済性を考慮した導入ポテンシャル (発電量億kwh/年)
太陽光	32,216	2,757
陸上風力	6,859	3,509
洋上風力	34,607	6,168
水力	537	174
地熱	1,006	630
合計	75,225	13,238

（表-2）

水力	781	7.8%
火力	7,636	76.3%
再エネ	1,982	19.8%
原子力	390	3.9%
合計	10,008	